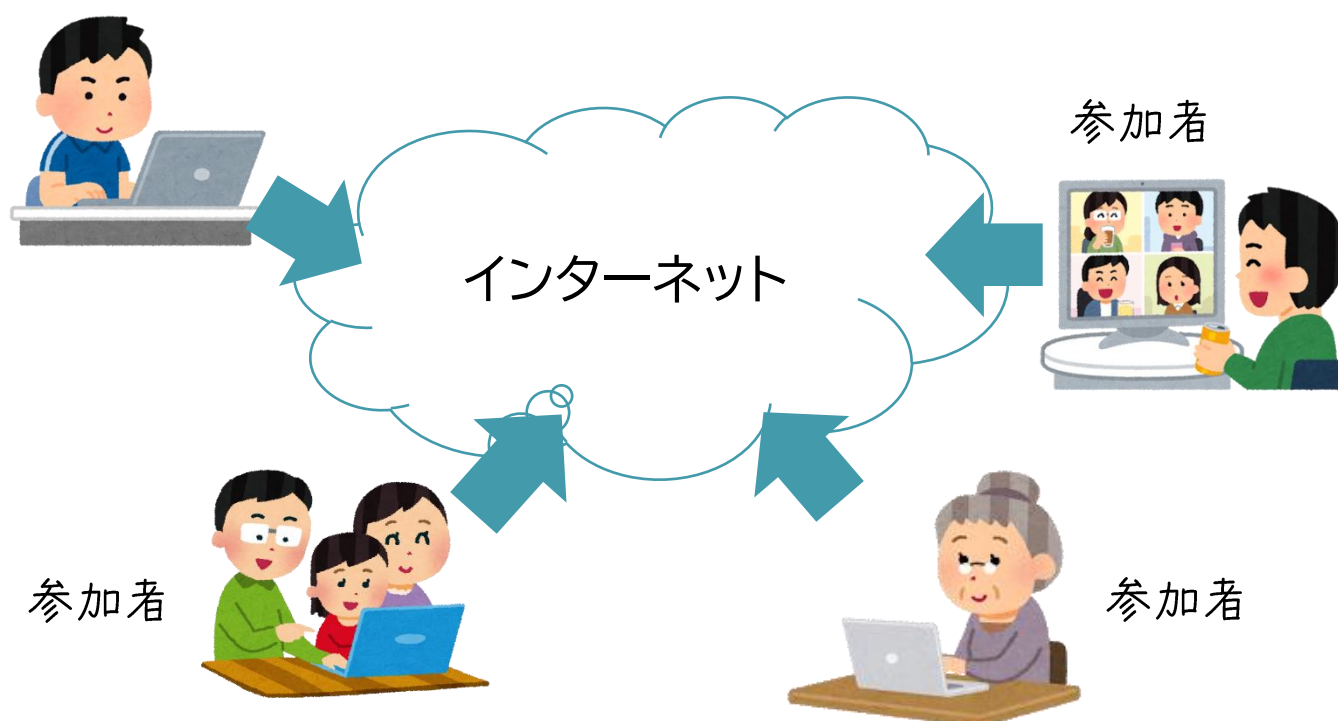


2021年の大阪大会は オンライン開催です。

インターネット会議システムZOOMを使った、オンラインで開催します。
参加者は、自宅や職場、教会からパソコンやスマートフォン、タブレット
端末などでご参加ください。ZOOMは簡単に使えます。

*これらの機器がない場合、準備をお願いします。
参加を希望される方のために、家族、友人、知人、教会共同体等、
協力をお願いしてください。

分科会主催者や講演者



分科会の講演者、参加者を交えての分かち合いなどは、すべて ZOOM によるオンラインでのやり取りになります。

パソコンやスマホ、IPAD などのタブレット端末などを
インターネットにつないでご参加ください。

*ZOOM の使い方などは、参加申込者に後日お知らせいたします。



プログラム



分科会

ステップ① See 理解する
 ステップ② Listen 聴く
 ステップ③ Share 分かち合う
 ステップ④ Act 行動する
 オンライン交流会

特別プログラム

Youth Forum(中高生の部)
 みんな地球人(子ども・青年・外国人の部)

ミサ (You Tube 配信)

大阪大会タイムスケジュール



第1日目	第2日目
11月22日(月)	11月23日(火・祝)
13:00 オンライン受付開始 14:00 開会・オリエンテーション 14:30 分科会 →P.4~ ステップ①See 理解する テーマについての学習。 証言や報告者のレポート、講演、パネル ディスカッション、創作劇、VTR、フ ィールドワーク等を通して学び、問題点 等を理解しましょう。 17:00 祈りの集い ステップ②Listen 聴く ステップ①知ったことを振り返りなが ら、福音的メッセージを聴き、黙想し祈 りましょう。 18:00 オンライン懇親会 各自、飲み物やおつまみをご用意くだ さい。 19:00 解散	8:00 オンライン受付開始 9:00 特別プログラム →P.18 *正義と平和 Youth Forum *みんな地球人 分科会 ステップ③Share 分かち合う ステップ①での学びを振り返った上で、 小グループに分かれて進行役(ファシリ テーター)の司会のもとに、受け止めた こと、疑問、感想、新たな気づき、発見 などを分かち合いましょう。 ステップ④Act 行動する みことばに照らして自分たちに求められ る生き方は何かを考えましょう。 12:00 昼休憩 14:00 ミサ (YouTube 配信) 16:00 閉会

分科会

30 の分科会を開催します。＜順不同＞

参加は申し込みが必要です。(詳しくは P.19 をご覧ください)



※定員数を入れていない分科会は人数制限なし

分科会 1

「あなたへ^{つな}繋げたい、平和の^{ちか}誓い」
～出生地^{かどま}門真市から憲法 9 条発案者^{しではらきじゅうろう} 幣原喜重郎を伝える～

【主催者】^{たけのぶしんじ} 竹延真治 (クラレチアン会司祭)

【発題者】^{さかいのりゆき} 酒井則行さん (かどま九条の会事務局長、元小学校教諭)



戦後二代目の総理大臣幣原喜重郎は大阪府門真市出身で、優れた外交官、のちには外務大臣として多数の国々と交わり、ワシントン・ロンドン両軍縮会議では平和協調を希求し、軍部の中国侵略に反対しました。その姿勢は“軟弱外交”と国民から蔑まれ、政界を退くが、敗戦後突然天皇により首相に抜擢されました。二度と戦争の悲惨さ、苦しみを人々が味わうことがないようにと考案された憲法 9 条は、幣原がマッカーサーとの秘密会談の中で生まれたものだったのです。幣原が洗礼を受けた事実はありませんが、彼こそイエス・キリストの平和のメッセージを最も忠実に生きた日本人の一人かもしれません。出生地の門真市で幣原の人となり憲法 9 条の成立の経緯を学びます。

分科会 2

居心地のいいミサって、なんだろう？ 声なき声を聴きあう
～NVC (非暴力コミュニケーション) を通じて～

【主催者】あっこ (信徒)

【発題者】あっこ (信徒) ^{たからもと} 宝本いつみさん (ゲスト講師) ^{よしかわひろ} 吉川寛さん (ゲスト講師)

わたしは母親であり、障がい者でもある信徒です。

出産前に一人で参加していたときは気づきませんでした。出産後に親となって教会を見直してみると子連れでミサに参加する人は少数です。

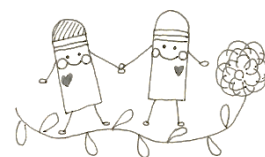
あくまで親の都合で子たちに同行してもらい、聖堂の一番後ろの「子ども

部屋」でミサに与ります。なぜだかわかりませんが、ミサ中に居心地のよさを感じたことは、ほとんどありません。

信徒でない家族からは「教会って誰でも歓迎されるんでしょう？」と聞かれ「ええ、もちろんよ！」と、即座に答えられない自分がいます。

だからと言って、教会に通うのを止めたくはない。だけど小さな子たちに「静かに、じっとして」は至難の技。子どもたちはどう感じているでしょうか。

子、親、障がい…全てのマイノリティも居心地のよい教会の在り方について想像してみたいと思い、この企画を提案しました。NVC (非暴力コミュニケーション) の手法を使って、共に考えてみませんか。



沖縄の米軍基地を考える

【主催者・発題者】^{かじはうたかのり}梶原隆憲（堺教会社会活動委員会委員 米軍基地を引き取る行動・大阪）

基地反対ばかりを叫び、訴えていても、それもわざわざ沖縄へ行って叫んでも一向に解決しないし、沖縄の方は自分達の反抗している姿ばかりが報道され、負のイメージしか持たれていないと嘆いておられます。決して喜んでいないのが現実です。

「本土に基地は要らない」は、沖縄基地継続を補完している事に繋がります。

世論調査では、日本国民の 8 割が日米安保条約を容認しています。

という事は米軍基地容認も同じ割合という事になります。

ならば、地方自治の見解からも県民投票で示された様に県外移設を考え、行動しなければなりません。

本土で声を上げ、叫び、国会審議にこの考えを届け議論しましょう。



分科会 4

語り継ごう、歌い継ごう！「置き去り」にしない世界に向かって！！

【主催者・発題者】^{ちばまさのり}千葉征慶（カトリック夙川教会信徒）

【話題提供】^{まさしゅういち}牧秀一さん（NPO 法人「よろず相談室」室長）
^{とうごひろみ}藤後博巳さん（日中友好協会大阪府連合会顧問）



牧さん



藤後さん

取り残された人々が、今もなお、身の回りに放置されたままな

らば「誰も置き去りにしない世界」とは言えません。正義と平和をもたらす信徒の生き方について、聖霊の光と導きを願い、天災、人災の二事例を取り上げます。

天災(震災障害者)：震災復興のかけで「置き去り」になっていた人の存在に気づき、放ったままにできなかった牧秀一さんにご登壇頂きます。「しあわせを運べるように」の歌を鑑賞します。

人災(満蒙開拓青少年義勇軍)：戦争で「置き去り」にされ、多くの苦しみのなかから脱出し、二度と「置き去り」が起こらないよう平和の歌を歌い続けている藤後博巳さんにご登壇頂きます。「紫金草物語」の歌を鑑賞します。

教会とエイズ・コロナ・LGBT

【主催者】カトリック HIV/AIDS デスク

【発題者】平良 愛香さん^{たいら あいか}（カトリック HIV/AIDS デスク委員、日本基督教団牧師）

新型コロナの問題はとても身近で関心があるのに、HIV/エイズについては他人事（ひとごと）のように感じてはいないでしょうか。「私の周りにはいません」本当でしょうか。性の問題がからむと、「考えたくない」「遠ざけたい」と感じてしまい、その



結果「いないもの」とされて生きづらくさせられている人たちが教会の中にもいます。

LGBT 性的マイノリティの生きづらさ、HIVに感染している人たちの生きづらさ、誰もが差別者にも被差別者にもならないために、すべての人が生きやすい社会とは、ということを共に考えてみましょう。

教会内のハラスメントはなぜ起きつづけるのか ー小さな気づきから大きな一歩へー



【主催者】カトリック こどもと女性の権利擁護のためのデスク

【発題者】竹之下雅代さん^{たけのしたまさよ}（NPO 法人フェミニストカウンセリング学会
ウィメンズカウンセリング京都 所属）

この分科会では、一般社会や教会の構造的な背景、無意識の加害とは何か、二次加害とは何かについて学び、身近な人が傷つけられたとき、周囲にいる私たちはどのように対応したら良いか、健全なコミュニケーションのあり方とは何か、について分かち合いたいと思います。

「教会内での人間関係でモヤモヤしている」「ハラスメントだと言われたけど、そんなつもりじゃなかった・・・」「言いたいことがあってもなかなか本音を言えない」・・・etc.

教会共同体がすべての人にとって安全な場となるために、誰一人もハラスメントの被害者や加害者にならないために、気づきを得て日々の生活のなかで行動を起こしていきましょう。

心の病と共に働き祈る

【主催者】^{おみたとしふみ}大田敏文

【発題者】^{あまのやつこ}天野勢津子さん(アガペの家代表者) ^{いけだゆういち}池田雄一さん(カトリック司祭)

三重県伊賀市の静かな住宅地の一角に2階立ての古民家があります。ここがNPO法人アガペの家です。代表者、天野勢津子さんと、様々な障害を持った人たち、またボランティアの方が共同生活を送っておられます。社会的弱者(引きこもり、家庭暴力、依存症)、また、精神的に疲れ癒しを求められておられる



人々、病に苦しむ人たちとともに農作業をしながら、更生と自立を目指すところです。また名張社会福祉協議会の職員として長い間勤務され、4年前定年退職された、和田好弘さんのご協力により昨年ケアセンター「野の花、アガペー」としてB型継続支援事業を設立することができました。私たちカトリック信徒は、祈りで始まり、祈りで終わる、アガペの家の人々から、何を学ぶのか。共生できる社会のため、具体的な行動計画を考える機会にしたいと思います。

日本に逃げてきてくれた難民たちと福音を生きる ～教皇フランシスコの呼びかけに応えて～

【主催者】日本カトリック難民移住移動者委員会(J-CaRM)

【発題者】松浦悟郎司教(J-CaRM委員長)、大阪大司教区社会活動センター
シナピスで活動している関係者、難民・非正規滞在者など当事者のみなさん



今年の世界難民移住移動者の日のテーマは、Towards an ever wider “We”です。教皇フランシスコはメッセージの中で、難民として日本にやってくる人々がもたらす多様性との出会い、そして異文化対話によって、私たちは教会として成長し、相互に豊かになるためのチャンスを与えられている、と示されています。

日本では今年、政府による入管法改悪を、教会内外の市民の力でストップさせることができました。福音にも人道主義にも反する日本の入管制度をどのように改善していくことができるか、教会内外のネットワークと協働した今後の取り組みについて、一人ひとりができることを話し合いたいと思います。

写真展 闇から光へ 知られざる沖縄戦後史～精神保健の歩みを見る・聴く

【主催・発題者】山田圭吾^{やまだけいご}（那覇教区信徒）



1900 年、「精神病患者監護法」が制定された。精神科病院の少なかった時代、治安維持を目的として精神病患者を私宅や小屋に監置することが行われました。あまりの過酷さに「わが邦十何万の精神病患者は実にこの病を受けたるの不幸の他に、この邦に生まれたるの不幸を重ねるものと言うべし」と言われ、1950 年に同法は廃止されたが、戦後日本から切り離されアメリカ軍統治下にあった沖縄では 1972 年の日本復帰まで続けられました。これまでほとんど触れられてこなかった沖縄戦後史の闇の一つである「私宅監置制度」について、当時の調査による写真や資料をみながら、「消された精神障害者」に光を当て、現在も続く数々の差別・虐待の元凶を探り、希望を分かち合います。

人権問題から見た福島第一原発事故 子ども脱被ばく裁判を通して

【主催者】日本カトリック正義と平和協議会 脱核部会

【発題者】井戸謙一^{いどけんいち}弁護士「子ども脱被ばく裁判と、その争点としての内部被曝」
片岡輝美^{かたおかてるみ}さん 「どうして私は原発事故問題に関わり続けるのか
宗教者という立場から考える」

福島原発事故から 10 年が過ぎ、福島復興が声高に叫ばれています。しかし現状を率直に見つめるなら、原発事故によって、被災した市民の人権は、未だ損なわれたままだと言わざるを得ません。



この分科会では特に、子どもたちの内部被曝という問題に焦点を当て、原発事故が、子どもたちに当然与えられるべき、健康的な環境で教育を受け、成長する権利を奪ったこと、また、この問題を問い続けることは、私たち自身が負うべき責任であることを明らかにしたいと思います。

なぜなら奪われた人権の問題をこのまま見過ごすなら、また同じようにこれからも私たちは人権を奪われ続け、人権が奪われた世界を子どもや子孫たちに譲り渡すことになるだろうからです。

そして最後に、私たちは宗教者として、原発事故の問題にどうして、どのように関わっていくのか、参加者とともに考えたいと思います。

子どもの貧困「西成高校の取り組み」

【主催者】 ^{いのうえはるみ}井上治美（大阪教区夙川教会信徒）

【発題者】 ^{ひげあきお}肥下彰男（大阪府立西成高等学校）



大阪市西成区は様々な社会問題が集積する貧困率の高い地域ですが、官民一体となり地域ぐるみの子育て支援体制が整っている地域でもあります。例えば、西成区では、児童福祉法により全国のほぼすべての自治体で設置されている要対協（要保護児童対策地域協議会）の実務者会議が、月に1回程度、各中学校区で開催されています。この会議には行政機関や地域の児童委員、子育て支援の民間団体・児童館と保幼小中と高校の教員が参加し、互いがもっている情報を交換しながら、支援の必要な子どもや保護者にたいしての対策を講じています。

報告ではコロナ禍で高校での生徒をエンパワメントするための「反貧困学習」の取り組みと地域と連携した支援の具体例を紹介したいと思います。

分科会 12

ゴジラから見た正義と平和

【主催者】 和歌山地区 紀北ブロック

【発題者】 ^{いとうひろし}伊藤 宏 さん(和歌山信愛女子短期大学 副学長・教授)



1953年3月1日ビキニ環礁におけるアメリカの水爆実験により、日本の第5福竜丸をはじめ多くの漁船が被ばくしました。

1954年11月3日水爆大怪獣と銘打たれた巨大大怪獣が登場する

第1作の『ゴジラ』の映画が公開され10人に1人が観たという空前の大ヒットとなりました。その「ゴジラ」公開から65年、今から2年前ハリウッド版「ゴジラ キング・オブ・モンスター」が大ヒットしました。ゴジラが私たちに問いかけてきたものは何だったのか？先生の講話を通して原点に立ち返り正義とは何か、平和とはどういうことかを共に考えましょう。

分科会 13

オンライン広島巡礼

【主催者・発題者】 大阪教区広島巡礼青年有志

「広島を考えることは平和に対して責任を負うことです」
これは教皇ヨハネ・パウロ二世の広島での平和アピールです。
今回は皆さんが参加者です。

教皇フランシスコの平和へのメッセージにある「思い出し、ともに歩み、守っていこう」を考えましょう。



【社会の底辺に置かれた人々が生きる釜ヶ崎】の現状に学ぶ

【主催者】^{ありむら ひろし}有村 洋（大阪教区住之江教会信徒）【発題者】^{よしおか もとい}吉岡 基 さん（キリスト教協友会共同代表）^{まつもと ひろふみ}松本裕文さん（NPO 釜ヶ崎支援機構事務局長）
^{しらほせ たつや}白波瀬達也さん（関西学院大人間福祉学部准教授）^{ほんだ てつろう}本田哲郎さん（フランシスコ会社司祭）

日雇い労働者の街として知られる大阪市西成区の一角が釜ヶ崎（通称）です。生活保護受給率が40%と高率。最近は「労働者の街」から「福祉の街」に変わりつつあると言われます。キリスト教協友会やNPO 法人釜ヶ崎支援機構等がそれぞれの理念に沿って支援活動を行っています。



釜ヶ崎の象徴とも言える「西成あいりん総合センター」は建て替えのため閉鎖されています。2013年からは行政と住民、地域団体が立場を超えた「西成特区構想」が進められています。貧困者をしっかり受け止めながら、同時に活性化をどう進めるか？長年に亘り取り組んでこられた方々に講演頂き、大会テーマに照らし、私たち信徒は何を学び、みことばと祈りの集い、分かち合いを通して各自が具体的な目標と行動計画を見いだせる機会にしたいです。

知っていましたか？ いま地層処分してはいけない8つの理由

【主催者】札幌教区正義と平和協議会

【発題者】^{おの ゆうご}小野有五さん（北海道大学大学院名誉教授・理学博士）

2020年10月、北海道
すっぽろ かもえないむら
寿都町と神恵内村は高

レベル放射性廃棄物の

最終処分地選定に向けた

「文献調査」を受け入れま

した。あれから1年を迎えようと

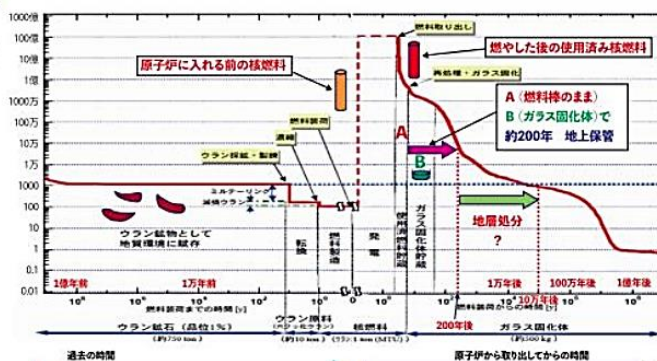
しています。
しかしこの決定は、地元住民の意
思を反映したものではありません
でした。10万年、保管しなければ
ならないという「核のゴミ」の地層
処分とはどんなものなのか、

今も寿都などに通って住民と地層処分に反対している小野有五さんから、自身でつくられたパンフレット「いま地層処分してはいけない8つの理由」を使って、パワーポイントでよりわかりやすく説明いただき、今、どうすればいいのか、また、カトリックとして、この問題をどう考えればいいのか、全国の皆さまと分かち合いたいと思います。



放射能の強さ
(セファ・ベクレル)
(1日盛で10倍)

地上で安全に保管できるので、いま地層処分してはいけない8つの理由
持ち出し、「地下に埋めて、あとは知らん顔」こそ電力会社の「無責任」です。



グラフ1:ガラス固化体の放射能の変化

「信仰と人権 ―ハンセン病問題冊子

『すべてのいのちを守る教会をめざして』をもとに」

【主催者】 日本カトリック部落差別人権委員会

【発題者】 ^{おくむら ゆたか} 奥村 豊 さん（日本カトリック部落差別人権委員会秘書、京都教区司祭）、他

『すべてのいのちを守る教会をめざして ―ハンセン病問題
過ちを繰り返さないために』（21 年秋、社会司教委員会より
発行予定）を使い、ハンセン病問題について、これまでのカ
トリック教会のかかわりの中で、何が問題だったのか、何が
過ちだったのかを学び、理解を深めます。



そして、ハンセン病問題を切り口にして、どうすれば様々な人権の課題を自分の信仰の課
題として生きることができるのか、そのために何をすればよいのかを、参加者とともに探
りたいと思います。

罪なき人を拘禁するな

―入管強制収容と精神医療における人権侵害を知る―

【主催者】 恣意的拘禁を考える会

【発題者】 Jwa Yongjik(チャ・ヨンジ)

市民団体 Save Immigrants Osaka の有志として、入管行
政の改善や大阪入管に収容されている人たちが仮放免者の
支援活動を行なっている 3 世の在日朝鮮人。父親を大和川
病院の精神病棟で亡くしている。

ほか、精神病院への入院経験者二人、国連恣意的拘禁作業部会へのロビイングを
行った弁護士一人の計三人に発題交渉中。



精神障害者の医療保護入院は司法手続きを経ず医師の判断により入院を強制するという
保護の名を借りた拘禁であり、非同意の長期収容、虐待の常態化、拘禁症等を生んでい
ます。業界と国が病床数を減らさず経営を維持するために保ってきた構造です。また出
入国在留管理庁による不法滞在外国人の無期限収容もそれぞれの状況に鑑みず、司法判
断を経ず人の生きる権利を侵しています。これらは日本における法の届かない領域であ
り、国連恣意的拘禁作業部会からの是正勧告を受けてきました。この分科会ではこれら
に連帯して社会を変えていける可能性を持つ問題と捉え日本に在住する全ての人にとっ
てより良い社会を実現するために必要な課題として学んでいきます。

「脱成長 Kommunismus・意見交換会」

【主催・発題者】 おおたまさる（和歌山ホームレス支援機構・理事長）

コロナ禍も、気候変動も、産業革命以来の人間活動の結果であり、エネルギーの膨大な消費活動への自然のしっぺ返し・地球の悲鳴なのですが、我々は適切な対処方針や現実認識を持っていません。

そこに彗星のように現れたのが著書「人新世の資本論」を引っ提げた斎藤幸平さんです。若いマルクス研究者ですが、「資本主義の無限の利益追求活動」がコロナ禍や気候変動や格差や過労死を生み出しているのだから、資本主義を脱出して「人間が幸せになれるコモン世界」を造ろう、というのです。資本主義の無限活動にストップをかける「労働時間の短縮」＝週4日労働、年収数億円という高額所得の禁止・「クソ面白くない単純労働の廃止＝ロボット活用」などなどの政策を着実に推し進める「普通の市民の連帯運動」を起こそうとの呼びかけです。



分科会 19

戦後76年 戦後世代が平和のバトンを受け継ぐために

【主催・発題者】 宮内陽子^{みやうちようこ}（元カトリック中高教員・神戸南京をむすぶ会）

「災害は忘れた頃にやってくる」と言いますが、戦争も同じではないでしょうか。戦後76年を迎え「戦前かもしれない」との声も聞こえる今、戦争、戦場体験者の高齢化が進み、「戦争だけは絶対にしてはいけない」というその切実な証言を聞けなくなる日が近づいてきています。戦後世代が自分事として戦争の歴史をどのように継承していくのか、新しい取り組みを模索することがますます必要になっています。分科会では日中戦争、アジア太平洋戦争、原爆を切り口に、被害だけではなく加害の側面を含めて、何をどのように学ぶのか、平和な世の中を築いていくために何ができるのか、その方法を共に探り、考え、実践につなげていければと思います。



みんなの政治、みんなが政治 社会をすてきにするために

【主催・発題者】 久門加代子（編集デザイナー）

コロナウイルス感染症により、私たちの命とくらしは政治と直結していることを改めて気づかされました。ですが、気づいたものの、これまで遠かったものにどうやってアプローチしたら良いかがわからないという方も多いと思います。

また関わるのは面倒と思っている方もたくさんおられます。

広告・広報物を制作していた私が、政治に関わるようになり、政治家と連携すると意外と効果的に良い社会に近づくこともあれば、無駄に疲弊することもあるということを経験して、気づいたこと、感じたことをざっくばらんにお伝えします。



分科会 21

よりそいのヒント

【主催者】カトリック大阪大司教区社会活動センターシナピス

【発題者】^{ふかお やすし} 深尾 泰 さん（大阪教区箕面教会信徒/大阪自殺防止センター電話相談ボランティア
はりまいのちの電話研修委員）

つぎのような場合、どのようにしたらいいでしょうか？

- ・ 初めて教会に来られた方にどのように声をかけようか
- ・ 大きな病気から回復された信徒に、何と話しかけようか
- ・ 教会への電話を取ったら、悩みの相談だった。



- 発題者の、関西いのちの電話や大阪自殺防止センターの電話相談の経験から、傾聴や共感について考えます。
- 仏教の自死遺族のつどいから、遺族の望む声かけを紹介します。
- 「よりそい」を実感した講演から心に残る言葉を紹介します。
- 福音書から、ヒントをいただきます。
- 信徒の体験談から考えます。

「日本の労働者」

【発題者】^{おおた ひでお}太田 英雄さん ACO（カトリック労働者運動）埼玉地区、JOC（カトリック青年労働者連盟）及びACO元全国リーダー、労働組合元活動家（連合全通う支部長・全労連郵産労元委員長）
^{とりすけ ゆうき}鳥巣雄樹さん（長崎教区正義と平和委員、長崎県労連事務局長）
^{よこいけ いすけ}横井圭介さん（横浜教区・ラルシュカノの家）
^{もりさき いわお}森崎 巖さん（元労働基準監督官、全労働省労働組合前委員長現顧問）

労働者の現状をお互いに正しく把握し、私たちキリスト者はどう考え、対処しているでしょうか。皆さん方の積極的参加を求めます。

皆さんは、一般企業の中で（大企業、中小、零細企業等）、カトリックや他宗教の経営施設（学校、病院、福祉施設）の教員や職員として、農業や漁業など地場産業の担い手として、青年労働者として、女性労働者として、海外からの移住労働者、外国人労働者として働かれています。また、障がいをもちながらも一生懸命に働いている方々もおられます。私たちのいのち、生活を守るエッセンシャルワーカーと呼ばれる方々もいます。移住労働者、外国人労働者に関しては、カトリック難民移住移動者委員会関係の分科会もありますので、それ以外の労働者問題に関心を持ち、闘い努力している多くの皆さんの生の声、姿、考えを、分かち合いたいので、参加してください。

一人5分～10分で発言できる方は、9月10日までに mwa968abc@nifty.com へ事前にお知らせください。



ふっこのかけ橋 ～フクシマ保養プログラムから見たこと～

【主催・発題者】 ふっこのかけ橋プロジェクト実行委員会

原発事故による被災地のこどもと親の保養を主目的として毎年キャンプやお泊り会を神戸地区の青年たちが中心となり企画実施して来ました。10年の年月が経過し、その取り組みの中で見たこと気づいたこと、感じたこと等を通して、福島の実状を知り、これからの支援のあり方と安心できる未来を共に模索したいと思います。



放射能汚染地域は今

【主催・発題者】^{こばやし ゆたか}小林 休（日本基督教団 鳴子教会牧師）

東京オリンピックは一時期「復興五輪」と言われ、復興の後押しと復興しつつある姿を伝えることを一つの目的とし掲げました。

しかし、今は「人類がコロナウイルスに打ち勝った証し」と言っ

ています。東日本大震災も原発事故もコロナウイルスも、政府の都合に合わせて利用されたり、すり替えられたりしてきました。一貫していることは、いかに問題を小さく見せるかです。復興したように見せる、コロナウイルスに打ち勝ったように見せることこそ、政府にとって一番大切なことです。そして、そのことが震災被災者や原発被害者に暗い影を落としています。今も仮設住宅で暮らす皆さんの思い、小児甲状腺がん実態、新しい放射線教育現状を通して「見せかけの復興」についてお話ししたいと思います。



ロラたちとともに歩んだ30年 そして 次世代につなぐ集い
オンラインでフィリピンと大阪をつなぎディスカッションとワークショップ

【主催・発題者】^{おきもと なおこ}沖本 直子（マザーズ・ストーリーブック・プロジェクトチーム代表）

^{いとうさなえ}伊藤早苗（ロラを支援するマキータの会）

日本カトリック大阪教区では30年前から第二次世界大戦中(1941年～1945年)の旧日本軍による加害者を見つめ、フィリピン語で高齢の女性を意味する「ロラ」と敬意を込めて呼ばれる、フィリピン人(元)「慰安婦」サバイバーたちに寄り添い交流・支援を続けています。

フィリピンからはロラたちの当事者団体リラ・ピリピーナ代表シャロン・カサブオ・シルバさんによる現状と活動報告。10代20代ユース世代のボランティアスタッフによる活動報告と日本にユース世代たちとのディスカッション。

日本からはアテネオ大学の修士課程プログラム修了プロジェクトがロラたちの家族にインタビューした話を基に、今年3月に出版した物語本を使ってワークショップを行います。この分科会を体験して頂いた皆さんの、東アジアとの向き合い方、関わり方の一助になれば幸いです。



「拉致」を知り、共に祈る

【主催者・発題者】

のぐちとしお

野口敏夫

しおのせいいち

塩野誠一

しおどめまさこ

汐留正子

みやながあつお

宮長篤夫

(カトリック枚方教会有志)



近年、北朝鮮拉致被害者の未帰還者の話題が少なくなったように感じられます。でも相変わらず、帰って来られていません。一つ

には政治問題となったから、これ以上は普通の人には触る事の出来ない問題であるという認識や、子供たち世代では、「過去そういう事件があった。」程度の認識と無関心が蔓延しているのではないのでしょうか。ここで、例えば横田めぐみさんをはじめとする人々とそのご家族のこの何十年の奪われた日々、生活、人生と、同じ期間をまがりなりにも自分の選んできた人生を歩めている自分とその家族との落差を考えた時、愕然としました。

難しく、ややこしい政治問題の視点は抜きです。ただ、北朝鮮に取り残された拉致された方々の帰還を祈りたいと思います。

私が牢にいたときに訪ねてくれた (マタイ 25・36)
～死刑囚のいのちも守ろう～

【主催者】日本カトリック正義と平和協議会 死刑廃止を求める部会

【発題者】死刑囚と交流してきた方数名

コロナ・パンデミックは私たちの生活を一変させました。

行きたいところに行き、会いたい人と会う。それまで当たり前だと思っていた自由な暮らしが様々な形で制限されるようになって随分経ちます。けれども日本にはコロ

ナ以前から、もっとも自由が制限されている人たちがいます。それが死刑囚です。自由どころか「生きる」ことすら許されないかれらは、日々、誰とも話すことのできない独房で、いったい何を考え、どのような生活を送っているのでしょうか。多くの制限がありながら、それでも死刑囚を置き去りにすることなく交流してきた方々をお招きし、私たちが守りたい「すべてのいのち」とは何なのかを一緒に考えます。



「平和をつなぐ」 いま、キリスト者として憲法を考える

【主催者】ピース9の会 日本カトリック正義と平和協議会 改憲対策部会

【発題者】池住義憲^{いけすみよしのり}さん (元立教大学大学院特任教授 日本聖公会信徒)



いのちと暮らしをまもりたい、平和な社会を実現したい、私たちの願いとはうらはらに、5月11日の「改憲手続き法（国民投票法）案」（通称）の衆議院本会議での可決にはじまり、コロナ禍に便乗した様々な法案が可決され、憲法改正に向けた動きが強まっています。

憲法に基づいて自衛隊のイラク派兵に反対し、違憲判決を勝ち取った池住義憲さんから話を伺い、憲法について、9条について、キリストの福音と照らし合わせて、改憲の危機にどのように行動したらよいか、考えたいと思います。

分科会 29

地球を大切にするにはどうすればいいか？

【主催・発題者】マッカーティン・ポール（聖コロンバン会の環境・正義・平和担当者）

気候変動・温暖化、生物多様性に迫る危機（遺伝子組み換えとゲノム編集を含めて）、海の酸性化、農薬（ミツバチの危害も含めて）、原発、アマゾン熱帯雨林の破壊（日本国と日本の金融機関や会社も関わる）、などなど。環境・自然がどんどん破壊されています。人類も危ないと言う学者がいます。キリスト者の責任と役割？
話の内容は気候変動・温暖化が中心になります。



分科会 30

子どもたちを誰一人取り残さない

【主催・発題者】NPO 法人こどもの里

「生きてても 意味ないし」「将来とか未来とか考えて何になるん？」
「どうせ、変われへんやん」小中学生にそう言わせてしまう、そう思わせてしまうのが、今の日本です。

2020年度、小学生14人、中学生146人、高校生339人、18～19才278人と10歳代の777人が自ら命を絶ちました。1ヶ月で65人の子どもたちがです。20歳代の若者たちは2521人が自死しました。子どもは、生まれて生きる権利があるのに、大人たちは守れませんでした。このことは今日も起きています。子どもの幸せな成長を願って、子どもの人権を尊重し、「最善の利益」を考えた社会、教会ではないことがコロナ禍になって可視化されたと言えます。これほどまでに子どもたちを生き辛くさせているのは何なのか、私たち大人は、そのことと真剣に向き合わねばならないと思います。
子どもたちから、「人を人として」の当たり前の権利を学びませんか？





正義と平和 Youth Forum

中高生プログラム

わたしたちは考える、
これからも考える

主催:カトリック学校教員有志

みなさんは、SDGs を知っていますよね!人類がこの地球でこれからも暮らし続けていくために、2030 年までに達成すべき目標です。今回の全国大会では、私たちと一緒に、この目標に向けて自分たちに何ができるかを考えたいと思います。日ごろ学校で「探究」などの授業の中で、またグループや個人でリサーチして、関心を持っているグローバル・ 이슈があれば、それをみんなと分かち合ってみませんか。みんなで、どうしたらよいか、何ができるかを考えてみませんか?

中高生のみなさん
ご参加をお待ちしています!



★保護者の皆さまも参観可

みんな 地球人



がいこく せいねん
外国にルーツのある人・青年・こどもプログラム

おはなし: 星野ルネさん

みなさんこんにちは。
『みんな地球人』というテーマの
元、漫画家でタレントの星野ルネさん

をお迎えして、身近にある『差別』について考えていきたいとおもいます。
学校、職場、教会で、私たちが普段言ったり、行動したりしている“当たり前”が
“当たり前じゃない”人がいる。頭ではわかっているけど具体的にイメージしにくい
ことも多いのではないのでしょうか?

今回は、そんな日常的な“自分にとって違って見えること”に目を向けて、「違う」ってどういうことなのかを、
あなたと一緒に考えたいと思います。楽しく参加できるような仕掛け盛りだくさんでお届けします。



特別講師紹介: 星野ルネ

漫画家・タレント。1984 年カメルーン生まれ。

4 歳の時に母の結婚に伴い来日し、兵庫県姫路市で育つ。

高校卒業後、兵庫県内で就職をしたが自分の生い立ちが人々の関心や共感を集めることを発見し、25 歳で上京。

タレント活動の傍ら、Twitter 上で発表していた自分の日常のエッセイ漫画が話題となり、2018 年 8 月に『まんが アフリカ少年が日本で育った結果』(毎日新聞出版)として出版された。

大会申込要項

1. 大会への参加について

- 1) 大会はすべてオンライン開催で、参加費は無料です。
- 2) 事前申し込みが必要です。 ※2021年9月30日までにお申し込みください。
- 3) 分科会と特別プログラムを同時開催します。特別プログラム(23日のみ)には①「正義と平和 Youth Forum」と②「みんな地球人」の2つのプログラムがあります。いずれかにお申し込みください。 複数を同時に申し込むことはできません。
- 4) 1日目のオンライン懇親会に参加希望の方は、該当欄にチェックしてください。

2. 申込方法

以下の方法でお申し込みください。 (※電話では受け付けません。)

- 1) ホームページから：カトリック大阪大司教区ホームページの「正義と平和大阪大会」に参加申込ページがあります。必要事項を入力し送信してください。
- 2) メールで：下記アドレスに「参加申込書希望」のメールを送ってください。Word または Excel のデータをお送りします。
- 3) ファックスで：別紙「参加申込書」に必要事項を記載のうえ、下記 FAX 番号に送ってください。

3. 分科会への参加について

- 1) 2日間通しての参加が原則です。どちらか1日のみ参加の場合は、ホームページまたは別紙「参加申込書」の「通信欄」にご記入ください。
- 2) 分科会によっては人数制限があります。申し込み順に受け付けますので、ご希望に添えない場合がありますが、ご了承ください。参加申込には「第2希望」までご記入ください。

4. 特別プログラムへの参加について

- 1) 2日目(11月23日)午前中に開催します。
- 2) 「正義と平和 Youth Forum」は、中学生および高校生を対象にしています。また、保護者の皆さまは、「参観」としてご参加いただけます。
- 3) 「みんな地球人」は、小学生と保護者、教会学校リーダーや青年・外国人を対象にしています。

5. 情報保障について

情報保障が必要な方は、ホームページまたは「参加申込書」の該当欄にチェックしてください。

また、パソコンやインターネット環境のない方は、ホームページまたは「参加申込書」の「通信欄」にその旨をご記入ください。対応を考えます。

※内容によっては、ご希望に添えない場合があります。ご了承ください。

●大会運営のための協力金のお願い

全国規模の大会のため、経費がかかります。ご協力をお願いいたします。

一口1000円 郵便振替 加入者名：カトリック大阪大司教区 番号：00910-2-17639

●大会ボランティア募集 要約筆記、インターネットを使用できない参加希望者に同伴できる方(スマートフォン、PCをお持ちの方) IT・オンラインサポート etc 説明会、研修あり(初心者歓迎)

申し込み先

Eメール：jptaikai@osaka.catholic.jp FAX：06-6920-2203
〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-4-22 大阪大司教区シナピス内
カトリック正義と平和全国集会・大阪大会事務局宛て
http://www.osaka.catholic.jp/no_side/jptaikai2021.html ▶▶



問い合わせ

Eメール：jptaikai@osaka.catholic.jp TEL：06-6942-1784
カトリック正義と平和全国集会・大阪大会事務局